

留学生の進路について

細谷 和宏

今月はいよいよレギュラーレポートの最後となります。長い間このレポートの携わっていただいた埼玉県国際課のみなさんにはお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、今月は留学生のその後の進路等について紹介させていただきます。ここ太原市はあまり日本人になじみがないのか街中で日本人をほとんど見かけません。私は大学関係者以外で日本人に会ったことがありません。何度か紹介させていただきましたが、同じ中国語コースを国際交流学院で勉強する留学生は非常に多くの国から集まっています。

一方、シンガポールに留学経験のある日本の友だちの話では、シンガポールの語学学校はほとんどが日本人か韓国人だったそうです。日常会話は日本語、どこかに行くのもいつも日本人と。ほとんどが日本で生活するのと大差ない生活を送っていたとのことでした。ところが私がここ山西大学で経験した留学生活はまったく違っていました。常に周りの友だちは日本人以外の国の人です。部屋でカードゲームをしたり、飲みながらくだらない話をしたりするのもみんな日本人以外です。むしろ日本ではメジャーな留学先よりここ山西大学の方が留学気分がより味わえるような気がします。そこで、このところ、留学生の間で話題の中心になっている卒業後何をするかを聞き出したので紹介します。

ちょっと話は逸れますが、山西大学で一番多くの留学生がいる国は、意外と思われるかもしれませんが、イタリアで5人います。次に多い国はアルメニアで4人います。イタリアは観光客が激増している中国人のための観光業に携わる目的で中国語を勉強している人が多いようです。アルメニアは正直はっきりした目的がわかりませんが、やはり近隣の経済大国の言語を学んで何かのビジネスに繋げようと考えているようです。



大学の南北を通るメインストリート いつもここを通り食堂に行きます

話を戻します。各地から集まった留学生の話を知ると、もちろん中国語を勉強している目的はその後の生活の糧にするためです。ほとんどの留学生が自国において大学生で奨学生として来ています。奨学生は毎月奨学金を自国から受け取りそれで生活して勉強しています。話によると奨学金は将来にわたって返金の義務はないようです。ところが毎月の額を聞いたら驚くほど少ない額でした。そしてほとんどの留学生は旅費だけを両親からもらって中国に来て、その奨学金だけでその余のすべての生活を賄っている学生がほとんどです。したがって、ちょっと贅沢に旅行に行ったり、週末にクラブなどに出かけてしまうと日常生活が困窮します。一食120円くらいで食べられる食堂の食事もできず、一日ビスケットだけで生活するような学生も見かけます。

ところが、このような学生はみんなこと勉強になるとまったく態度が変わります。平日は午後から、休日は朝から夜の10時まで図書館に通う学生を見かけますし、何かない限り本当に一日中部屋にこもって勉強している学生もいます。授業中も日本の学校風景とは違って自分が言いたいことは当てられる前にどんどん発言します。ほとんど授業を独占するような学生もいます。日本人くらいです、指されるまで発言しないのは、つまり私ですが。なんとなく中国語を学びに来たというような学生は一人もいません。みんな中国語習得に関して

はとてもまじめな考えを持っています。卒業後自分が望んでいるビジョンで仕事に就けるようにと中国語を勉強しているのです。どの国も日本と同じように就職難のようです。とにかく誰にも負けない自分だけのスキルをしっかりととらうと必死です。



許西（シューシー） 大学横の繁華街 すごく不衛生に見えるがいつも学生で賑わう
学生からリトル香港とか山大王府井と呼ばれる 看板KTVとはカラオケのこと

そんな留学生に話を聞くと、卒業後はだいたいの方が今年九月には再度中国に留学に来ると話します。みんな食費にも困る学生なので、また今年も奨学金がもらえそうなのか聞くとほとんど可能性がないとのこと。つまり、全費用を自費で賄うつもりなのです。7月に帰国して二か月間仕事をいくつもかけもって旅費を稼いでとにかく中国へ来るだけきてみてそれからその後のことは考えると言います。日本人の発想とは違うハングリー精神でいっぱいです。生きるために必死です。ほとんどの日本人にはない発想に感心させられるばかりです。日本人ならまず親になんとかしてもらおうでしょう。

そんな態度で勉強に臨んでいるので中国語の習得も早く、授業が始まったころには漢字がほとんど読めなかった友だちが、日本人で日ごろ同じような漢字を使っている私が読めない漢字も今ではすらすらと読みます。授業が始まったころ、漢字が読める私は一歩も二歩も彼らより有利に立っていたため、中国語

なんてこんなもんか簡単じゃないかとたかをくくっていたところ、みるみる地道に漢字の書き取り練習を続ける留学生に抜かされていきました。童話うさぎとカメのうさぎになった気持ちです。本当にこのことは反省しているし、後悔しています。なんで、もっとみんなと一っしょに努力しなかったんだろうと。

このレポートで結論として何が言いたいかというと、日本人にはない彼らのハングリー精神を学ばせてもらったことをお伝えしたかったのです。もっと日本人は、戦後間もないころのようなハングリーな日本人を思い出すべきなのではないかと生意気ですが思った次第です。就職難だ、就職難だとネットに一日中頼って面接のエントリーを入れている時間があったら、人と違ったことをして自分にしかできないスキルを磨くべきじゃないかと感じます。それはお金がなくても、親に頼らなくても友だちの留学生がしているように日本人もできるはずですよ。どこか突然外国に行ってなんでもいい、いいことも悪いこともカルチャーショックを受けてくるだけでもいいと思うのです。中国でも多くのバックパッカーを見かけます。それは女の子も同じで、一人で大きな荷物を背負って歩く白人も見ます。日本ではほとんどなじみのない地方都市にです。日本人のバックパッカーのように自国で多額の海外保険に入り、いつでも何十万円の現金が引き出せるカードを持参しているツアラーとは彼ら、彼女らはまったくコンセプトが違います。お金はないけど生の中国を見たくて必死なのです。

私はここ山西大学で、そんな留学生と一っしょに勉強できたことがほこりであると同時に自分の目的意識の希薄さに恥ずかしい思いをこのごろとても感じます。



太原駅前 現在地下鉄工事が始まり駅前広場メインストリートが閉鎖され工事中 5年間このまま